

オリンピック・パラリンピック・ムーブメント推進校 実施報告書

【都道府県】 福岡県

【学校名】 福岡県立福岡視覚特別支援学校

【テーマ】 I II III IV V

- I オリンピズムの教育的価値
- II おもてなし精神とボランティア
- III パラリンピックと障害者スポーツ
- IV 日本文化と異文化・国際理解
- V スポーツを楽しむ心

【実践研究タイトル】

日本の国技 相撲を学ぼう！

【実施学年】

幼稚部 年長1名(女子1名)

小学部 第1～6年16名(男子9名、女子7名)

中学部 第1～3学年8名(男子5名・女子3名)

【目的・ねらい】

○力士や呼出しの方々の身体や出で立ち、振る舞いなどを近くで見たり、触ったり、声を聞いたりすることで、スポーツでもあり、日本特有の文化でもある国技「相撲」について学ぶとともに、その他の日本文化やさまざまなスポーツに対する興味を広げる。

○力士を力いっぱい押したり、ぶつかったりするなどの、全身のすべての力を外に出す活動を経験することで、自分自身の身体イメージを高めたり、身体の動かし方・使い方を学ぶ。

【種類】

・各教科(体育、保健体育)・道徳 ・外国語活動 ・総合的な学習の時間 ・特別活動

・教科以外での取組(保育)

【実践内容等】

(実施内容)

1 めあての確認

体育館に集合し、本時のめあてを確認した後、全体で相撲について事前の学習を行った。(実態に合わせて、学級等で前日までに事前指導を行った。)



2 取組を見る・聴く

来ていただいたお二人の力士による実際の取組を間近で見学した。テレビやラジオでしか見ることや聴くことができなかった、呼出しや取組が目の前で行われた。



3 相撲体験をする

幼児児童生徒自身で考えたそれぞれの「四股名」で一人ひとり呼び出してもらい、相撲体験を行った。幼児児童生徒の実態合わせて、「まわし」も締めてもらった。大きな体や力強さに驚きながらも、それぞれが全力で取り組むことができた。



4 「櫓太鼓」を聴く

「寄せ太鼓」と「はね太鼓」を呼出しの方に実演してもらった。体育館中に響き渡る太鼓の大きな音に、びっくりする幼児児童生徒もいたが、音に慣れてくると、普段聴いていとリズムとは異なる太鼓のリズムに聴き入っていた。



5 質問タイム

「ご飯はどれくらい食べるのですか？」や「1日何回、お風呂に入りますか？」等の質問が出た。「1回に大きなどんぶり5杯は食べる」や「1日5回くらいお風呂に入る」と聞くと、食べる量やお風呂の回数から、それだけ体を動かして稽古することに気付くことができた。また、朝ご飯を食べずに稽古することや、1日2食ということに、自分たちとの生活と比べて驚いていた。



6 お別れの挨拶

幼児児童生徒を代表して、児童会長からお礼の挨拶の後、記念写真撮影を行った。また、お礼として、米や野菜を幼児児童生徒から手渡した。握手をしてもらう幼児児童生徒もおり、手の大きさに驚いていた。



(実践上の工夫点、留意点等)

- 8月末の説明会を受け、九州場所の直前に、「相撲」を計画したため、実施まで時間があまりなかった。次年度以降は、早い段階から計画する必要がある、
- より相撲を理解しやすいように、四股名を決めたり、相撲についての事前学習を行った。(映像の視聴、体育科での取り組み等)
- 意欲的に学習できるように、学級通信等で「相撲体験」のことに触れ、家庭でも「九州場所」を話題に挙げてもらうようにした。
- 事後学習に活用できるように、交流した力士の「星取り表」を昇降口に掲示した。

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
第1回	や	○	や	○	や	○	+	○	+	○	+	○
第2回	や	○	+	○	+	○	+	○	+	○	+	○

(成果)

- 自分の四股名を呼び出してもらうことで、恥ずかしがりながらも意欲的に活動に取り組むことができた。また、事前指導とあわせて、この体験を通して「相撲」に興味・関心をもつことができた。
- 実際に取り組ませてもらったことで、力士の大きさや力強さを体験することができた。また、「櫓太鼓」や「呼出し」の独特の言い回しを聴くことで、伝統文化に五感を通して触れることができ、実体験による学びが必要な視覚に障害のある子どもたちにとって非常に有意義な学習であった。
- 次の日の朝刊に、カラー写真と共に記事が掲載された。オリンピック・パラリンピック・ムーブメント事業の実践を地域に紹介できた。

【オリンピック・パラリンピック教育の実施に伴う課題点】

- 本校の幼児児童生徒にとって、卒業後も運動を継続する習慣を身に付けさせるには、視覚に障害があってもできるスポーツの体験やスポーツを通じた成功体験を積み重ねることが重要だと考える。今後、子どもたちの興味を広げるために、様々なスポーツの紹介や保護者への理解啓発が必要である。

オリンピック・パラリンピック・ムーブメント推進校 実施報告書

【都道府県】 福岡県

【学校名】 福岡県立福岡視覚特別支援学校

【テーマ】 I II III IV V

- I オリンピズムの教育的価値
- II おもてなし精神とボランティア
- III パラリンピックと障害者スポーツ
- IV 日本文化と異文化・国際理解
- V スポーツを楽しむ心

【実践研究タイトル】

スポーツに関心をもち、友達と一緒に楽しく運動するための工夫
～ビーンボウリングを通して～

【実施学年】

中学部 第1～3学年 5名(男子3名・女子2名)

【目的・ねらい】

- ・実態に応じてルールを設定しプレーさせることで、自信をもたせるとともに運動することの楽しさを味わわせる。
- ・自分の能力を最大限に生かして自己課題に挑戦させる。
- ・チームメイトと協力し、役割を果たさせる。
- ・相手チームの選手を尊重する心を育成する。

【種類】

- ・各教科(保健体育)・道徳・外国語活動・総合的な学習の時間・特別活動
- ・教科以外での取組()

【実践内容等】

(実施内容)

1 準備運動

主運動を行うための準備(基礎体力の向上とけが防止)として、以下の運動を毎時間実施している。補強運動については、個々の実態に応じて回数を設定し行うようにしている。

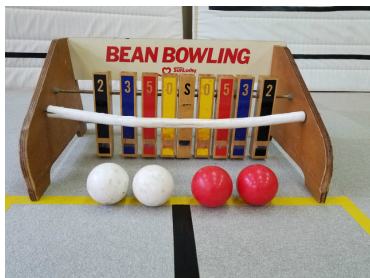
ラジオ体操第1→補助運動(ストレッチ)→補強運動(腕立て伏せ、腹筋、背筋)



2 ビーンボウリング

① ビーンボウリングの紹介

ビーンボウリングとは、現在の室内ゲームで大型機械化されたボウリングを、ピンの配列を工夫し、横に並べ簡便化したものである。名の通り、豆がはじけるようにピンがボールに当たると反転したり、自動的に戻ったりするようになっている。コントロールやバランスを競うゲームで、体格や体力に関係なく老若男女誰でも楽しめることから、このニュースポーツに注目が集まっている。生徒たちは、これまで校外学習等でボウリングを体験し楽しむことができていた。そこで今回、ビーンボウリングを紹介し、保健体育の授業に取り入れ取り組むこととした。



② ビーンボウリングを楽しむための練習

- ・投球練習（投げ方の練習、方向をつかむ練習、力加減の練習）

③ ビーンボウリング大会



ビーンボウリングスコア表											
		2m			3m			5m			合計
		1	2	3	1	2	3	1	2	3	
【第1試合】 【チーム名】	1投目										
	2投目										
	合計										
【第2試合】 【チーム名】	1投目										
	2投目										
	合計										



（実践上の工夫点、留意点等）

- ・楽しく活動できるように、楽しい雰囲気作りを心掛けた。
- ・個々の実態に応じてルールを設定したり投球距離を設定したりした。
- ・生徒の視覚障害に配慮し、床にラインテープを貼って足で方向を確認できるようにしたり、生徒に向かって声を掛けたり、手を叩いたりして転がす方向や距離感が分かるようにした。
- ・仲間意識を高めることができるようにゲームはチーム戦で行うようにし、投球順や戦術を話し合ったり、チーム毎に練習したりする時間を設けた。

(成果)

- 生徒一人ひとりの実態を考慮してルールや投球距離を設定したことで、全員が楽しく取り組むことができた。
- 練習の積み重ねでうまくなり、自信をもって取り組むことができるようになった。
- チーム戦にして、友達と協力して取り組ませるようにしたことで、一緒に喜んだり悔しがったりして運動を楽しむことができた。
- 今回の取組を通して、他の障害者スポーツや運動に興味をもたせることができた。

【オリンピック・パラリンピック教育の実施に伴う課題点】

- 子どもたちの興味関心を広げるために様々なスポーツの紹介と体験。
- 日常的に運動に親しむ時間の確保。
- スポーツを通じた成功体験の積み上げ。
- 専門性の高い指導者の確保。